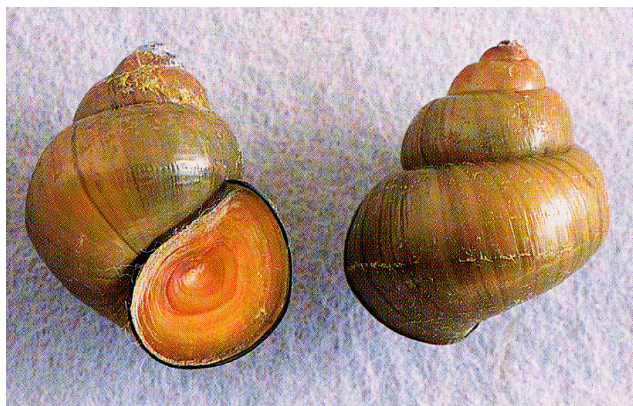


マルタニシ

Cipangopaludina chinensis laeta (ニ目タニシ科)

出典：関市の水生生物

生態情報

I からだの特徴

貝殻の高さは 60mmくらいで、全体に丸みをおびています。貝殻の表面は緑褐色で光沢があります。メスは触角がまっすぐで、オスは先が巻いているので区別ができます。

I すみ場所

本州、四国、九州に広く分布し、水田、池沼、用水路など水の流れのあまりない場所にすんでいます。

I 生活のようす

6～7月頃、卵ではなく親貝とそっくりな仔貝を産みます。泥底を好み、水底の泥の上を這い回って藻やデトリタス(動植物が死んで分解したもの)を食べています。乾燥に強く、冬はしっかり蓋を閉じて、干上がった田んぼの窪みや泥の中で冬を越し、田んぼに水が入ると活動を始めます。

参 考

「長野県版レッドリスト」などで希少な貝類に指定されています。

現在では、田んぼの減少や農薬の使用などが原因で減少しています。田螺(たにし)という名前は、田んぼのにし(巻貝)という意味からきています。

食用とされています。

モ/アラガイ

Radix auricularia japonica (モ/アラガイ目モ/アラガイ科)

出典：関市の水生生物

生態情報

I からだの特徴

貝殻の高さは 25mmくらいで、卵形で半透明、からだには黄土色に黒い模様があります。貝殻の入り口は大きく開き、貝殻の高さの5分の4以上の大きさがあります。タニシにあるような蓋はありません。

I すみ場所

北海道、本州、四国、九州に分布し、池や沼、水田、河川の流れがゆるやかな場所にすんでいます。

I 生活のようす

水草や石の表面に付着している苔類などを食べています。夏にゼラチン質で紐状の卵を水草などに産みつけます。

参 考

「環境省レッドリスト」で希少な貝類として指定されています。

カワシンジュガイ

Assiminea lutea japonica (インガイ目カワシンジュガイ科)

(写真準備中)

生態情報

I からだの特徴

貝殻の長さは130mmくらい、貝殻の高さは60mmくらいです。貝殻はやや厚く、膨らみは少ないです。貝殻の表面は黒色で、内側は赤みを帯びた強い真珠のような光沢があります。

I すみ場所

北海道、本州に分布し、溪流の比較的流れの早い砂礫底や礫底で、夏でも水温が20℃以上にならない、きれいな河川にすんでいます。

I 生活のようす

貝殻の半分くらいを川底に埋め、水中のプランクトンを餌として取り入れています。幼生はヤマメやアマゴなどサケ科の魚類のヒレなどに寄生して成長します。寿命は100年以上といわれており、成長が遅くかつ長生きのようす。

参 考

「長野県版レッドリスト」などで希少な貝類に指定されています。

カワシンジュガイは名前のとおり、天然真珠が取れることから名づけられました。川底に立って生活しているので、別名「タチガイ」とも呼ばれています。カモシカやライチョウと同じように氷河時代に生き残ってきた遺存種と考えられています。

サワガニ

Geothelphusa dehaani (エビ目サワガニ科)



出典: 関市の水生生物

生態情報

I からだの特徴

甲羅の幅は4cmくらいです。すんでいる地域によって淡青色、淡黄色、茶褐色などからだの色の変化があります。オスのはさみは左右の大きさが違い、右のはさみの方が大きいです。

I すみ場所

本州、四国、九州、屋久島に分布し、水のきれいな河川の上流にすんでいます。一生を淡水で過ごすカニです。溪流沿いなどでは、枯れ葉の上をカサカサと音をたてて移動している姿がよく見られます。

I 生活のようす

繁殖期は夏で、メスはふ化した子ガニを1ヶ月近く抱えます。冬は、岩のすき間や大きな石の下などで冬を越します。

参 考

から揚げや、煮て食べるととても美味しいですが、肺ジストマ(寄生虫)をもっているため、生で食べるのはとても危険です。